1 Nestle Waters

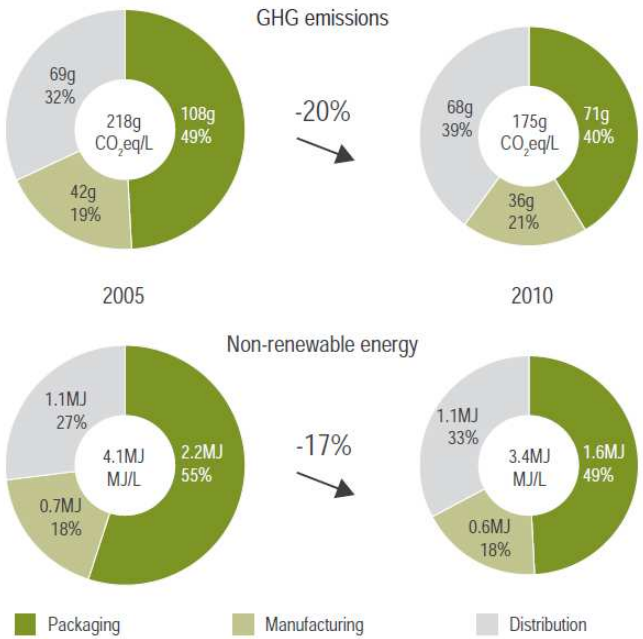
	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	● GHGは、水、生物多様性、エネルギーなどとともにNestle Watersの環境影響評価指標の一つであり、サプライチェーンを通じた取組みを行うことは非常に重要である。 ● サプライチェーン排出量の内、主な排出は、梱包資材の調達、製造工場から顧客までの製品の輸送、小売店でのエネルギー消費に伴う排出であるが、自らがコントロール可能であり、より効果を得やすい段階を見極めることが重要である。
□ 算定結果の活用方法	● GEF Toolでの計算結果をCSV Reportで公開している。また、水1リットル当たりのサプライチェーン排出量を指標として採用しており、この数値の変化を見ることでステークホルダーとのコミュニケーションを図っている。
□ 算定のメリット	● 水1リットル当たりのサプライチェーン排出量として、2005年から2010年までに218g-CO2/Lから175g-CO2/Lへ削減することができ、この結果を広く公表している。
□ 算定方法	● Nestleと同様に製品ベースのLCAや、企業、ブランドベースのLCAを行うことでサプライチェーン排出量の算定を行っている。 ● また、算定の考え方については、GHGプロトコルやISO14040などに基づいて行っている。
□ 社内の算定体制	● NestleでもGEF ToolはNestle Watersにおいて2004年に開発されたものであり、2008年から全社的に使用されるようになった。 ● このツールには多くの排出原単位が格納されており、例えば輸送の手段や居地などを入力すれば、排出量が算定できるようになっている。 ● 継続的な算定のためには、分かりやすく操作の容易なツールを整備することが重要である。

Nestle Waters CSV Report 2011
http://www.nestle-waters.com/content/Documents/css/images/Pdf/Nestl%C3%A9_Waters_CSV_report_2011.pdf

Nestle Waters

2

	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	● GEF Toolを活用することで、ライフサイクル全体での排出量のインパクトを測ることが可能となり、コントロール可能でインパクトの大きい物流やパッケージの段階において取組を行った。 ● 特にパッケージ段階においては、2005年から2010年までに34%の削減を行うことができた。
□ サプライチェーン排出量算定の課題	● サプライチェーン排出量を算定する際の最大の課題は、算定する際の標準化された排出原単位が整備されていないことである。 ● 業界として標準化された原単位が整備され、何を算定に含め何を除いてよいのかが示されることが非常に重要であり、そのため、業界では共通のPCRの作成に取り組んできており、2013年の中旬には公開される予定である。 ● このような業界または製品レベルで共通の基準がなければ、サプライチェーン排出量を企業間や製品間で比較することはできない。
□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ	● 国際的な業界レベルでのPCRを、できる限り早く策定することが重要である。 ● 消費者の理解を促進し、素材間の不公平な競争を避けるために、使い捨てのプラスチック、ガラス瓶、アルミ缶、再利用可能なガラス瓶などのようなキーとなる製品について計算例を作ることが重要である。 ● GHG排出量などのような一つの指標にのみフォーカスすることを防ぎ、正しい情報を使って消費者と積極的にコミュニケーションをとることが重要である。



Nestle Waters CSV Report 2011
http://www.nestle-waters.com/content/Documents/css/images/Pdf/Nestl%C3%A9_Waters_CSV_report_2011.pdf